

中北.com

地域教育情報紙

中北教育事務所
地域教育支援スタッフ

no
3

TEL 0551-23-3046

FAX 0551-23-3013

チュウホクドットコム

中北の地域社会 (COMmunity) の心の交流 (COMmunication) をめざします

中学生の力を地域防災に！

地域防災訓練への中学生の参加

押原中学校 (7/13、8/27)

コミュニティ・スクールの指定を受けている押原中学校では、平成26年度の「実践的防災教育指定校(県指定)」としての研究成果を地域に還元できないかという考えのもと、「地域の中で中学生が果たす役割」を考え、昭和町総合防災訓練に参加しています。今年で3年目になりますが、自分の住んでいる地区ごとの防災訓練に参加し、地域住民とともに、自分の命を守る(自助)こと・地域でどのように助け合うか(共助)を学ぶ機会にしています。

7月13日(木)には、区長会に各地区の代表が参加し、各区の役員と生徒が訓練内容の確認を行いました。

8月27日(日)8:30の緊急地震速報で各避難地に集合しました。下河東地区では、自分たちの安全を確認後、

押中生は消防団員や民生委員と共に高齢者等の要支援者宅を安否確認しながら訪問し、必要に応じ避難地までの輸送を手助けしました。また、AED訓練や消火器の使い方など、消防団員のお手伝いをしながら地域の方に伝えました。実際に消火栓を開け、放水作業の実戦も経験しました。最後に、DIG(災害図上訓練)の発表を行い、地域の予想災害発生箇所や避難経路で二次被害が起こりそうな箇所(ブロック塀の転倒など)を地域の方に説明しました。清水新居地区では、中学生による炊き出しのお手伝いも行われました。

どの地区でも、地域の方々が、押中生のきびきびした動きに頼もしさを感じ、災害時は大きな力になると期待する声が聞こえました。



リヤカーでの避難



消火栓からの放水訓練



災害図上訓練の発表



炊き出しのお手伝い

白州中学校(8/18)

8月18日(金)、白州中学校は夏休みの全校登校日を利用して、防災学習会を行いました。大きな災害が起きたときを想定し、自主防災力を高めるのがねらいです。全校の生徒が12の居住地区ごとに分かれて、公民館や集会施設などに集まり、中学生が小学生に心肺蘇生法の伝達や、地域の大人と防災マップの確認をしました。

荒田松原地区は中学生10名、小学生2名のほか、区長さんや民生委員さん、PTAの役員さんなど全部で20名ほどが松原多目的集会施設に集まりました。そし



始めの会



心肺蘇生法の伝達講習



防災マップの確認

て、まず中学生がダミー人形を相手に人工呼吸やAEDの練習をしたあと、小学生にも同じように体験してもらいました。また、防災マップの確認では、消火栓の場所が移ったところや、一人暮らしで援助が必要となりそうな家などを示すシールを地図に貼っていました。

今回のような取り組みによって、大災害のときに求められる「自助・共助」の力が高まることを期待します。

夏休みイベント報告 暑い中、様々なイベントが行われました！

楽焼きに挑戦

北杜市親子陶芸教室（7/23、8/20）

北杜市では『オリジナル楽焼き陶芸を作ろう』と題して、7月23日と8月20日の2日間、須玉ふれあい館で親子陶芸教室を行いました。ちなみにこの事業は、(財)自治総合センターの宝くじの社会貢献広報活動の一環である「青少年健全育助成事業」の助成を受けています。東京芸術大学から指導してくださる先生を招くということもあり、定員の約2倍の応募があったため、抽選で参加者（親子20組40名）を選定しました。

7月23日は、先生から楽焼きの特徴や、作る上での注意点などを実際に粘土を手にとって説明を受けたあと、各自で制作にとりかかりました。先生が作るのを見てい

ると簡単そうに見えましたが、実際に自分でやってみると、なかなか思うような形になりません。それでも、お父さんやお母さんの手を借りながら、作品を作っていました。各自5kgの粘土が割り当てられているので、一人でいくつも作れます。2時間あまりで、皿や小鉢、カメ、イルカ、フクロウなどの動物、土鈴など、たくさんの作品ができました。

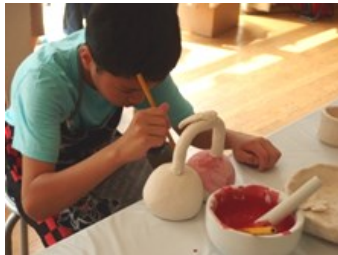
この後、作った作品を大学で素焼きにしてもらい、8月20日、色つけや釉薬をかけて焼き上げました。陶芸研究室准教授で陶芸家の三上亮先生をはじめ、院生の方々が焼き上げ作業にあたってくださり、窯から取り出された作品は、色合いが鮮やかで光沢があり、どれもすばらしい出来映えでした。夏休みの貴重な思い出づくりとなりました。



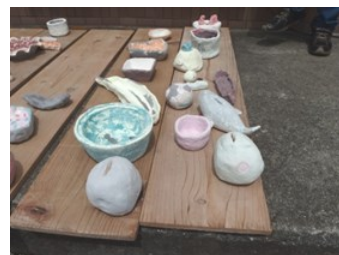
先生による楽焼きの説明



先生による作り方の説明



素焼きにした作品へ色つけ



できあがった作品

中央市夏休み教室

石けんクラフト教室・消しゴムはんこ教室

中央市教育委員会では、毎年4回の「夏休み教室」を企画しています。

7月27日（木）は、玉穂総合会館で「石けんクラフト教室」が開催されました。市内の小・中学生14人が参加し、講師の竹内まさみ先生の指導で、身近な素材の石けんを使って夏らしい置物を作る教室でした。子どもたちは石けんから個性豊かなディップアイス、棒アイス、三色だんごを手際よく製作しました。子どもたちは、石けんの香りがする芳香剤として、部屋に飾るそうです。

8月3日（木）は、「消しゴムはんこ教室」が開催されました。今回は、市内の小学3年生以上の19組の親子が参加しました。専用の消しゴムを使って、図案をトレーシングペーパーで移し、カッターで手彫りしていく作業です。講師の望月孝之先生の指導で、親子で工夫しながら製作していました。子どもからは、「できた〜」「やった〜」と声が上がリ、実際にスタンプを押すと、できあがった作品を見て、親子で笑顔一杯になりました。

「夏休み教室」は、その他に、防災知識を深めるとともに自然現象の理解を目的とした「自然環境学習教室」、食への感謝や料理への興味を深めるための「子ども料理教室」が開催されました。



石けんクラフト教室



石けんクラフト(作品)



消しゴムはんこ教室(親子で)



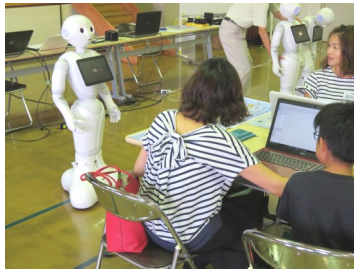
消しゴムはんこ教室(講師と)

プログラミングに親しむ

人間ロボットアプリ作成体験 (8/5)

8月5日(土)に双葉公民館で「人間ロボットアプリ作成体験」が開催されました。市内の小学4年以上の8組の親子が参加し、講師の園原隆敏先生・佐藤康一郎先生の指導で、ペッパー君のアプリ作成を学ぶ講座です。

ペッパー君のデモンストレーションでその愛くるしい動きを見て、子どもたちは大喜びするとともに、プログラミング作成への興味関心が高まりました。今回は、「タッチセンサー」と「会話センサー」を使い、体に触れると「こんにちは」とあいさつしたり、簡単な会話(受け答え)をするプログラミングの作成でした。親子で試行錯誤しながら作



成し、自分で作ったプログラミングどおり作動すると子どもたちはとても満足げで、さらに工夫するなど意欲的に取り組む事ができました。

2020年からの小学校での「プログラミング教育」に向けて、子どもたちはコンピュータ(プログラミング)への興味関心が高まった体験ができました。

奥湯村園の慰問

敷島小学校 合唱部 (7/31)

7月31日に敷島小合唱部は奥湯村園(老人ホーム)を慰問し、合唱を披露しました。敷島小合唱部は8年前より様々な施設で依頼を受け、毎年慰問を実施しています。今回は小学3年から6年までの子どもたち26名が、全8曲



の披露を行いました。

顧問の小林先生は、児童が高齢者の方と交流することによって、高齢者を身近に感じ、ボランティアの大切さを学び、豊かな心を育て欲しい

と願い、毎年合唱の依頼を受けているそうです。今回は、「夏だ!音楽でつながろう!」をテーマに、10日後に控えたNHK合唱コンクールで歌う課題



曲や自由曲、子どもたちが高齢者の中に入り、簡単な振り付けと一緒に歌って踊る「怪獣のバラード」など楽しい納涼会でした。高齢者の方々は、「かわいいねえ」と口々に言いながら、笑顔で一緒に楽しみました。

最後の曲の「ふるさと」では、高齢者の方々と子どもたちが一緒に歌う姿がとても感動的でした。敷島小学校合唱部の子どもたちは、美しい歌声とハーモニーそして優しい心を持った子どもたちでした。

フードバンク山梨へ協力

白根高校を中心とするボランティア (7/26)

NPO法人フードバンク山梨は、県内で支援を必要とする家庭を支える活動を行っています。白根高校では、ボランティア活動の一環として7月26日、「フードバンクこども支援プロジェクト」への協力作業を行いました。昨年はPTAが協力したそうですが、今年は生徒会で生徒や保護者に呼びかけを行い、協力を取り付けたそうです。

この日の作業は、支援物資の箱詰めです。白根高校の体育館を会場に、寄付してもらった食料品や生活必需品を種類ごとに並べ、それをボランティアの人たちが移動しながら箱に入れていきます。品物は、お米や調味料、レトルト食品、缶詰、お菓子など12種類ほど、大きな段ボール箱が一杯になるくらい量があります。ボランティアとして参

加したのは白根高校の生徒が一番多かったのですが、甲府東高校や中央高校、共立看護学校等からも生徒の参加があり、保護者も含めて200人以上が従事しました。



夏休みは学校給食がないので、普段以上に困る家庭もあるようです。そういう人たちに少しでも喜んでもらえることを願いながら、午後の体育館の暑さの中、みんなで汗を流しました。この日箱詰めされたのは300弱、宅配便で翌日には各家庭に届けられるとのこと。このような助け合い活動に参加することで思いやりの気持ちが育てられていくのは、大変素晴らしいことだと思いました。

子どもの貧困対策～何が必要か～

山梨県教育研究所公開研究会

8月5日(土)、県教育研究所公開研究会が橿形生涯学習センターで行われました。約300名が参加して『子どもの貧困』について考える」と題した堅田香緒里氏(法政大学社会学部准教授)の講演を聴き、意見交換をしました。

先生は「子どもの貧困」という問の立て方に疑問を投げかけ、「子どもの貧困対策」で中心になっているのは教育支援であり、その背景にあるのは、教育によって能力を高めれば安定した職業に就け、貧困から脱却できるという「物語」であると指摘、困窮している子どもを今助ける対策にはなっていないこと、また、安定した職に就けなかった場合は自己責任とされるおそれがあること、そして、「子どもの貧困」といっても子どもだけが貧困なのではないので、家庭(親)への経済的な支援が必要なことなどをわかりやすく説明してくださいました。子どもの貧困対策を考えるうえでの重要な指摘をいただきました。



県民と県教育委員会との意見交換

山梨県一日教育委員会

8月23日(水)、山梨県一日教育委員会が東京エレクトロン荻崎文化ホールで行われました。これは教育行政に県民の意向を反映し、教育行政への参画・協力を促進するために、様々な課題等について意見や要望等を直接聴取し、教育施策の充実を図るものです。県教育委員会が主催し、県内に4つある教育事務所の管轄区域を単位とし、年2回ずつ行っていて、今年の開催は中北教育事務所と峡東教育事務所の管内です。

当日は、地域住民として保護者や教育に関心のある一般の方が120名ほど、県教育委員会からは教育委員、教育長、教育監、学力向上対策監、関係課室長など14名が参加しました。意見交換は「学校と家庭及び地域社会との連携」、「児童生徒の体力向上」、「子供同士の望ましい人間関係づくり」の3つにテーマを絞って行われ、多くの意見や感想が出ました。内容は、県のホームページに掲載される予定です。



峡中地区・峡北地区 地域教育推進連絡協議会

- 期日 平成29年10月24日(火)
- 会場 双葉ふれあい文化館
- 講演 「すべての子どもたちを守るために」
～子どもの権利を守るための法制度～
- 講師 山下 敏雅 氏(永野・山下弁護士事務所 弁護士)

地域教育フォーラムを 開催します!

- 受付 14:00～14:30
- 開会行事 14:30～14:40
- 講演 14:40～16:10

※一般で参加を希望する方は下記へ御連絡ください。

平成29年度 『中北.com』No.3
編集・発行 中北教育事務所 地域教育支援担当
柴 茂生 矢崎 克洋
〒407-0024 荻崎市本町4-2-4

電話 0551-23-3046
Fax 0551-23-3013
中北教育事務所のホームページでもご覧になれます。
<http://www.pref.yamanashi.jp/kyoiku-ch/>